

寺  
こよみ

十 月

一 日 お講・板屋

五 日 雪ん子劇団国民文化際  
国際こども演劇祭宇奈

月セレネ公演

一 日 清掃奉仕

一 四 日 富山・滑川報恩講

一 五 日 お道具磨き

一 六 日 お講・三日市

十七夜お経会

一 八 日 おけそくづくり

報 恩 講

一 九 日 午後一時 速夜  
午後七時半初夜

二 〇 日 午前七時 晨朝  
午前十時 日中  
午後一時 満座

二 三 日 経田・柳沢・窪野 田  
家報恩講

二 四 日 東狐・青木報恩講

二 九 日 上下飯野・高島・新浜  
報恩講

三 〇 日 板屋報恩講

寺 報

善 巧

発 行

〒 938 富山県下新川郡  
宇奈月町浦山 497  
白雪山 善 巧 寺  
T E L (0765) 65-0055  
F A X (0765) 65-0975

報 恩 講

十月十九〜二十日

布教 川崎順正師

空 華 忌

十一月四〜五日

講話 利井明弘師



玉雪院釋俊之法師 8月11日往生

私の父方の従兄弟である俊之さんが、八月十一日忽然と還浄されたのでありますが、奥様から凶報のお電話を頂き、前々から体調を崩しておられることは、承知しておりましたが、あまりにも突然のことにて、お電話をお聞きしながらも、自分の耳を疑ったことでもあります。

私と俊之さんとの従兄弟関係を申し上げますと、俊之さんのご母堂は、私の父の二番目の妹で、お名前前は、みつえと言っておられました。このみつえ叔母さんの六人のお子達の長男として、ご尊父の学校関係のため、岡山で出生されたと聞いております。私の子供のころ、岡山の叔母さんと呼んでおったことを記憶しております。

私の祖父は、誠に古風な昔かたぎな人物で、婚家の都合もわきまえずに、時々三人の娘を呼び寄せ、談笑することを、老後の唯一の楽しみにしておりました。今でも楽しい懐かしい思い出の一つとして、脳裏に残っております。おとすことが、昭和初期の頃と記憶しておりますが祖父は、毎年夏休みの頃となりますと、娘三人それに子供達孫達を集め、

## 俊之さんの思い出

近くにある三国海岸に三軒程民家を借り、二週間程海浜生活をさせることを、習わしとしておりました。福井に嫁ぎました波子叔母さんの六人の孫、雪山のみつえ叔母さんの六人の子達、大聖寺に嫁ぎました雅子叔母さんの一人の娘、それに私の姉と私、総勢十五人が、毎日石場で、さざえ、かななどをとったり、海水浴を楽しんだ懐かしい、楽しい思い出があります。

童児達の最年長者は俊之さんでした。怪我のないよう、たえず注意に目をくばり、リーダー格であったことは勿論のことです。

その後、進学結婚等にて交流はとだえ、十人あつた従兄弟も、一人去り、また一人と、今では雪山家の滞子さ

ん、汐子さん、様子さんと私、四人となつてしまいました。

俊之さんの莊嚴なご葬儀に参列いたしました親鸞聖人の恩師法然上人がお弟子さんに、一別後の再会は難しいが、浄土での再会の喜びがあると言われたと聞いたことがあります。ふとその様なお言葉を思い出しながら、合掌した事があります。

福井興源寺住職 龍嶋祐信師



# 雪華院釋隆弘法師(雪山隆弘)

## 七回忌法要記念講演

行信教校長

利井明弘師

五十六億七千万  
 弥勒菩薩はとしをへん  
 まことの信心うるひとは  
 このたびさとりをひらくべし  
 念仏往生の願により  
 等正覚にいたるひと  
 すなわち弥勒におなじくて  
 大般涅槃をさとするべし  
 真信心うるゆえに  
 すなはち定聚にいりぬれば  
 補処の弥勒におなじくて  
 無上覚をさとするなり

本日は当寺の住職、雪華院隆弘師の七回忌でございます。六年前の八月二十三日に父を亡くしまして、一ヶ月たないうちに弟が亡くなったのでございまして、父が亡くなった日、暗くなってから弟がマイクロボスの後ろに寝てやって来まして、お

たなと思いました。

今日は汽車で来まして、母と二人で黒部の駅から歩きながら当時を思い出していました。ある日弟がね、「兄ちゃん、おれの臨終待つてんのやろ、催促はきついで」と言った。ちゃんと車の後ろに葬式の用意をしておったのですから、その通りなんです。が、そう言われてしょうがないから、私は帰ったんです。そして父の三七日を勤めて、十七日のご法座に富山に行った話をして、みんなお念仏聞いておんなじ所へ帰らしてもらおうな、今聞いて、帰る所ちゃんとはっきりしとかなとどうするんや、とお話終わって四時ちよつと過ぎに、死んだという電話を受け取ったわけです。

みなさんね、お釈迦さまが四苦八苦を説かれたというのはご存じでしょ。善導大師はね、五苦八苦と言っている。生老病死の四苦に愛別離苦が一つ加えてあるんですよ。やつぱり愛しい者と別れなければならぬというのには娑婆の悲しみの中では一番深いものだろうと思います。父がお晨朝にでましてお導師をしながら涙をこぼしたそうです。隆弘がお浄土へ帰るかと言つてね。善導大師が五苦八苦つていわれるのがわかりますね。

今ご議題にあげました、正像末和讃の「五十六億七千万」つ

ていうのは、親鸞聖人が善鸞さまを懐絶された後にできたご和讃なんですよ。「親と子の縁思ひ切りたり」とおっしゃったのは、どれほどつらかったでしょうね。そのつらさの中からでくる喜びが「五十六億七千万」なんです。「小慈小悲もなき身にて 有情利益は思ふまじ」この世では助けとうても助けられない、どうやってみても助けることはできないんですよ。僕の友達が真言宗の得度をすると言う。真言宗の華嚴というたら護摩炊くやつですよ。ごまなくてくんや、国家安泰、病氣平癒とかを祈つてたくんかと聞いたから、それですと言う。ならごまたいてあいつが治るように祈つてやれと言った。そしたら、彼が僕に「こんな私が祈つて治ると思いますか」。この時ハツとしたね。今まで言うてるんですよ、お同行に。浄土真宗には祈りはありません。祈つてもどうしようもないのが娑婆です。四苦八苦、五苦八苦のこの世界です。

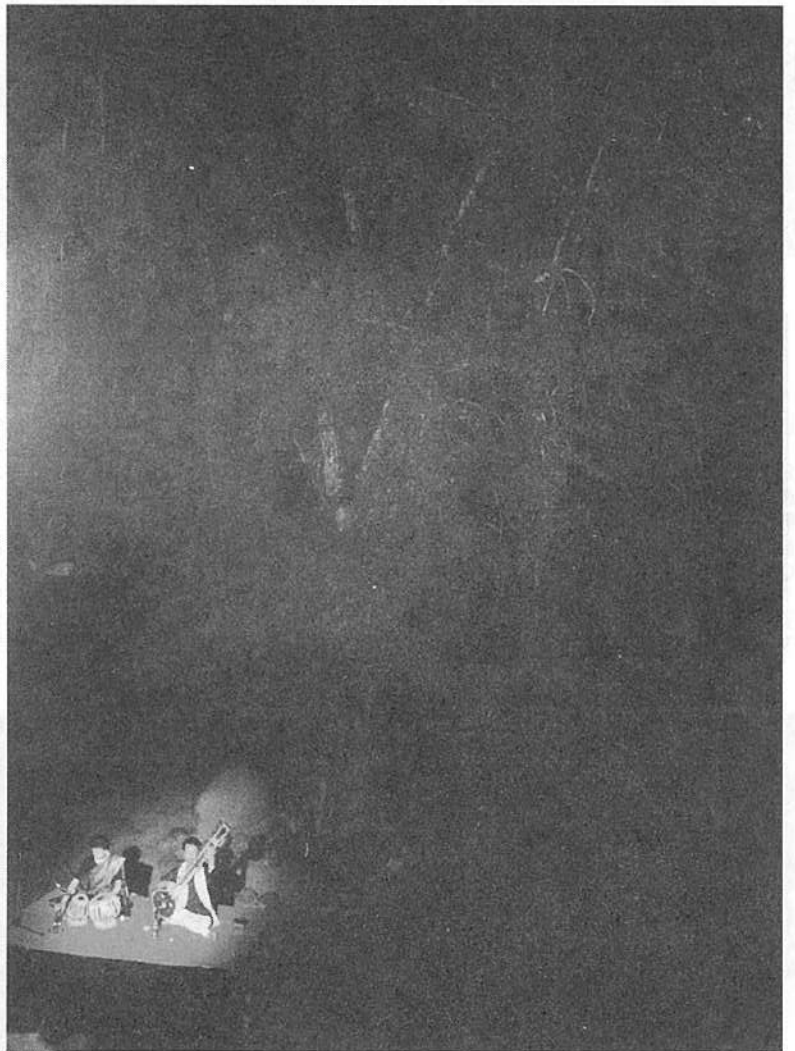
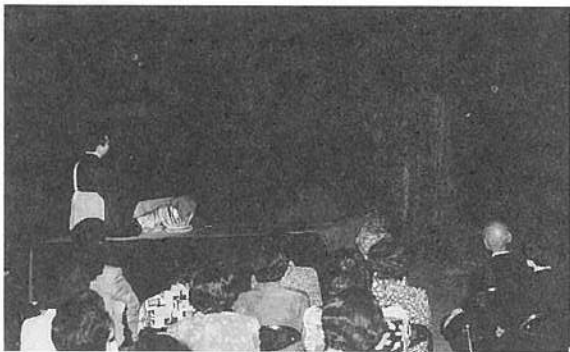
父親を亡くし弟を亡くして思いました。祈りたくなるような悲しみや苦しみはあるんです。しかし、祈つてもどうしようもないということを親鸞聖人から

聞かされておった。阿弥陀さまから聞かされておった、ということとはどれほどすごいことでしょう。南無阿弥陀仏、間違ひなく救うとおっしゃってくださる阿弥陀さまがいらっしゃる。そして、お浄土に帰ればすべてのものを教化する、すべてのものをお浄土へ帰す、還相回向の働きまでいただいております、ということを味わえば、祈らずにはいられない私が今祈つてもどうしようもないということ聞かされると同時に、この世ではもう会えんが命終わつたら必ず会えるぞという身にさせていただくことです。

みなさん、今愛しい人と仲良くお暮らしになっておるかもしれません。必ず別れんならん時がきますよ。生き別れか死に別れか、どっちにしろですね、別れてもまた会えるという世界、今度会う時はお浄土で会いましょうねと、お互いに言える身に、お念仏を聞いてなつていただきたい。みなさんが今ここにお座りになつて居るのはね、すごいご恩を得てられるんですよ。どうぞみなさん、弟と、このお父さんやら、知ってる人たちみんなが帰つて居る所へ、私たちもお念仏となえて帰らせてもらいましょや。

# 大いちょうの下のコンサート 9月16日夕

九月十六日夕七時半、アナウンスと共に境内が徐々に暗くなり唯一つ本堂の灯がともると、ザ・ネンブツのメロディ、そして一瞬境内が真暗になってライトの中に浮び上ったのは五百年の大いちょう。こんな幕開けでコンサートが行なわれました。インドの楽器シターの音もすばらしくあたたかもインドの菩提樹の下にいる如く。



「おしゃかさま私は後世に生をうけました沙門でございます」と若林眞人師がいちように語りかけられると、観客も千二百五十人のお弟子の一人になったやうな心地。その間、大いちょうは葉一枚ゆれることもなくじつ

と立ちつくしていました。

「いちようがきれい」「シターがすてき」「若林先生がカッコいい」「熱い紅茶がおいしかった」等大好評でした。白鶴会、夢を語る会、花の会、日校OB、雪ん子シニアたちの共催でした。





# 前住職 釋俊之 八月十一日 お浄土へ

今年は異常に暑い夏でした。

祠堂会を終えた頃から調子をくずしたごえはんでしたが、七月二十八日肺炎をおこして黒部市民病院に入院、集中治療室では意外に元気で、夜になると正信偈をうたい、家族が面会に行く

と蓮如さんや親鸞聖人の夢を見たなど話してくれました。八月十一日病院からの呼出しでかけつけると間もなく、妻、娘、孫、娘むこたちに囲まれて八十五才の生涯を閉じ、お浄土へまいりました。

葬儀は八月十五日雨風の中、午前十一時三十余名の総代が実行委員となって営まれました。

## 告 辞

暑い暑いと言っていた夏も、立秋の声と共に幾分涼しさを覚

える今日、仏教伝統の宇蘭盆会の最中、ここに善巧寺第二十世住職玉雪院釋俊之法師の寺葬を執行するに当り、葬儀委員を代表して告辞を申し上げます。

釋俊之法師は去る八月十一日午後七時三十二分卒然としてかねての素懷を遂げられ浄土に往生されました。享年八十五才でありました。

法師はかねてより軽度の心疾患のため警戒療養中でしたが、十年程前、虚血性脳出血があり、軽度の手足の障害が残っており、後継住職隆弘法師の遷化という大悲運に見舞われました。変化

極りなきは人生の常とは申しながらどんなにか心痛のあったことかと思われま

す。弘法のため、二千八門徒のため、そして若き少年若院たちの訓育のため不自由の身を押しつけて勤行に説法に励まれました。この信念と行動も又過労の一因になったのかと思われま



師は明治四十四年一月、先の善巧寺住職深教院釋俊夫法師の長男として生を享けられました。長じて京都大学に学び、又僧侶として得度され、その生涯を仏教徒として浄土真宗の寺院と云う環境の中で送られました。

お父上の影響もあつてか学究的な御性格であり、若くして京都立命館大学で教鞭を執られ、その後門徒の要望に依えて郷里浦山に帰られた後は、地方文化の中心となられ、又、富山女子短大の講師として哲学を講ぜられました。

文学についても造詣が深く、かつては北日本文学賞の撰者をも勤めておられます。

作家の故壇一雄氏とは特に親しく私もよく壇氏の文学の批評等お聞きしたものでした。今でも壇一雄の辞世の句とも云うべき「もがり笛幾夜もがりて花に遇はむ」の一句が深く私の脳裡にしみついて居ります。又木崎さと子氏の受賞作「北陸の寺」の感想など深く思い出されます。

大学を退官されました慰労の会で幹事の方から私に感想を求められました時、私は今こそご院家さんは私達門徒が取り戻した様な感じと申しましたが、本当に心から家の主が帰って来たとの思いでした。会場の皆様か

らこんなとらえ方もあるんだと微笑を以て迎えられた事でした。今、法師はお浄土に帰られ先覚の方々に迎えられ会われて、帰りのつらさのある私の幸せを身を以て感じておいでのことと思います。



長い闘病生活の中では本当に奥様喜子様を頼り切っておられました。手足一つ動かすにも見舞の客との対話にも喜子、喜子と云って、はたの目にも微笑ましく思いました。御祖師親鸞聖人の伝記を読んで恵僧尼消息に現われる無限の敬と愛もこの様でなかったかと思われ今改めて感動しております。

苦悩の時もありました。先の大戦中は一兵卒として徴集され外地におられたとか、戦争と云う人間殺戮の場である現状と平和の使者たるべき僧侶との立場に心の痛みを感じ戸惑う事ばかりだったと述懐しておられました。然しながらその生涯を仏に

捧げ、仏と共に生きられた師は正に至福の生涯であつたと思います。

去る十一日の朝、私の二鉢の水盆の内一鉢の蓮の花数本が最後の花を開きました。そして昨日もう一鉢の蓮華が新しい花穂を伸ばし、その一本が見事な開花を見せていました。爪紅底白の上品さ、「はつ」と息を呑む美しさでした。

去る花もあり、そして又生れ出ずる花もあり、遷化された師のおもかげと重ね合わせ思わず、花に向って合掌した次第です。生涯を仏に捧げる



蓮華かな  
善巧寺総代  
葬儀委員長 鬼原勝次

夫逝きて 想う事多し  
秋の風  
秋海棠 愛でたる人の  
今はなく

喜子



# 善巧寺こども盆踊り 二十周年 8/17



受付は20年間 高島さん一家

今年には二十周年のお祝いに、記念のうちわをプレゼントしました。

大いちょうの下で、夢を語る会、花の会、日校OB、雪ん子シニアが小さい子供たちと手をつないで、踊りの輪は、二重三重になって、こどもたちの夢をふくらませたことでした。

前住職の葬儀の直後でもあり開催はためらわれたのですが、仏さまの前でみんないま生かされている喜びとご恩報謝をあらわす集いは、やはり是非やらせてもらいましうと例年より二日おくれで八月十七日夕、こども盆おどり二十周年記念の会が催されました。

前住職の葬儀の直後でもあり開催はためらわれたのですが、仏さまの前でみんないま生かされている喜びとご恩報謝をあらわす集いは、やはり是非やらせてもらいましうと例年より二日おくれで八月十七日夕、こども盆おどり二十周年記念の会が催されました。

前住職の葬儀の直後でもあり開催はためらわれたのですが、仏さまの前でみんないま生かされている喜びとご恩報謝をあらわす集いは、やはり是非やらせてもらいましうと例年より二日おくれで八月十七日夕、こども盆おどり二十周年記念の会が催されました。



かんつみに30回挑戦した子がいます



夏の人気もの かき氷



ヨーヨーつるの むずかしいよー



男の子に人気のバスケゲーム



輪投げ店歴20年の忠ちゃん



ビールはいらんかねえの名コンビ



夢を語る会、日校OBG、雪ん子シニア おみごと勢揃い！



ねえ 水だんご食べない？

夢を語る会ゲートボール

8/3

なんと九年ぶりに夢を語る会のゲートボールが八月三日夜行われました。先輩格の中山慶太郎さん、野畑一雄さんの提案が実現したものです。沢田幸雄さんを審判にむかえて、一同久々に闘志をました。その後一杯のおいしかったこと。もちろん聖典三四頁、ちゃんとお勤めしました。



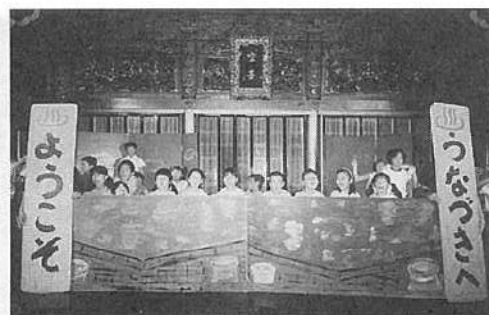
歓迎  
広島  
正覚寺  
ご一行さま  
七月八日、広島から七時間かけて二台のバスを連ねた正覚寺ご一行六十八名がおこしになりました。このパワ、さすがの善巧寺もちよつとまねのできないすさまじさ、ありがたさです。雪ん子達も一人一人とあつい握手を交わしました。ようこそ。ようこそ。



7月6日 清掃奉仕に協力して下さいましたみなさん



福井教区ほとけのこども大会出演の雪ん子



夏の定期公園に新入生14人が初出演

- 二九日 浦山新報恩講
- 二八日 浦山新報恩講
- 二六日 石田報恩講
- 二二日 板沢報恩講
- 二一日 板沢報恩講
- 二〇日 中陣報恩講
- 一九日 中陣報恩講
- 一七日 十七夜お経会
- 一六日 お講・浦山新
- 一五五 中新報恩講
- 一四四 魚津報恩講
- 一二二 出報恩講
- 六日 上野報恩講

| 空華忌 |          |
|-----|----------|
| 四日  | 午後七時半 初夜 |
| 五日  | 午前七時 晨朝  |
|     | 午後一時 日中  |
|     | 満座       |

- 一日 お講・愛本新
- 四日 おけそくづくり

寺  
ごよみ  
十一月



青年盆会

8/13

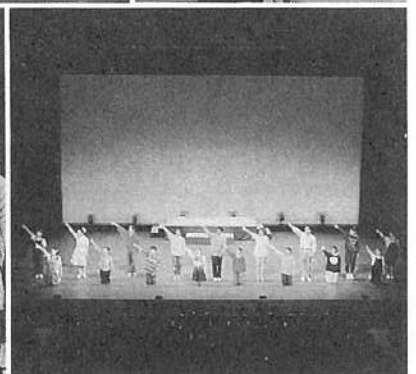
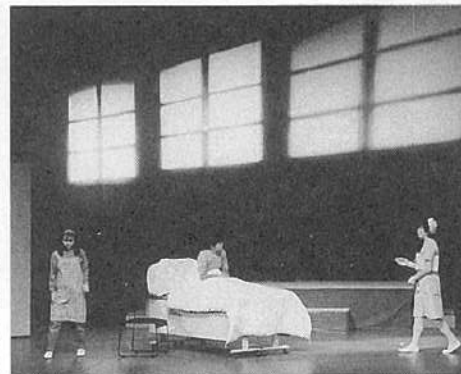
雪ん子劇団シニア

第三弾製作中

「善巧」80号には紙面に限りがあるため掲載されませんでしたが、「しあわせ色の青い空」につづく第二弾、手話入ミュージカル「翔べいのちの詩」を四月六日黒部市国際文化センターコラールで上演。六百余人の観客が心をゆり動かされました。や、時期をはずした感がありますが、いのちを問いつづけるシニア達の活動をここに再録します。

また、十月五日の国際子ども演劇祭めざしてただ今猛練習中、夏休みも返上して特訓が続いています。第三弾は雪ん子ジュニアも手掛けている「桃次郎の冒

険」。シリアスドラマとは趣を異にし、軽妙でありながらも内容の深い新作にシニア達大いに苦しんでいましたが、みごとに新しい境地を開拓しました。どうぞお楽しみに。



思い返して見ると、入院するまでの祖父は、僧侶というより文学者としてのイメージがありました。そんな祖父が、入院してからはたびたび口から念仏がこぼれ、ある時は、蓮如上人や親鸞聖人の夢を見たと話してくれました。そういう夢など一度も見たことがない僕は、とてもうらやましく思い、同時にうれしくも思いました。

しか持ち合わせていない僕が、死ということを、生きるということを考えさせてもらえるのはやはり、自分と関係の深い人の死に会う時かもしれない。しかし僕は、祖父の死を目のあたりにした時、自分には感情というものがなく、とさえ思いました。身近なものの死にあいながら、自分も死ぬということ



若院雑感

が、これを自分の力で座つておると思ったら大間違いや。私達は、目には見えない、言葉では言いあらわすことができない、ともに、忘れてゆくのです。そんな僕も、葬儀までの間に、いろいろと考えさせられ、「いのち」を見つめることができました。

大きな御恩の中で生かされておる、皆さん、それをよう味わってください。」流されている生活からは決して気づくことが出来ないことを、祖父のおかげで今、気づかせてもらっています。祖父と深く話すことが出来なかったことは悔やまれますが、今、家族と心から話し、通じ合えることをうれしく思っています。

念仏が口からこぼれながら死んでいった祖父をもて、僕は幸せ者です。  
(葬儀のあいさつから)

(アンケートより)

病気をしたことがない健康児の私なので、死と隣合せに頑張つて生きている子たちの姿を見て、普段どれだけ自分がムダに生きているかと思つた。今日の公演を機会に少し先のことを考えて中身の濃い人生を送ろうと思います。

入善町芦崎

倉田咲子さん

一九才

寺

十二月

- 一日 お講・下立愛本
- 二日 愛本新
- 三日 中ノ口・赤田報恩講
- 四日 下村・大橋報恩講
- 六日 下村報恩講
- 九日 下立愛本報恩講
- 一日 下立愛本報恩講
- 二日 下立愛本報恩講
- 三日 下立愛本報恩講
- 四日 下立愛本報恩講
- 五日 下立愛本報恩講
- 六日 下立愛本報恩講
- 七日 下立愛本報恩講
- 八日 下立愛本報恩講
- 九日 下立愛本報恩講
- 十日 下立愛本報恩講
- 十一日 下立愛本報恩講
- 十二日 下立愛本報恩講
- 十三日 下立愛本報恩講
- 十四日 下立愛本報恩講
- 十五日 下立愛本報恩講
- 十六日 下立愛本報恩講
- 十七日 下立愛本報恩講
- 十八日 下立愛本報恩講
- 十九日 下立愛本報恩講
- 二十日 下立愛本報恩講
- 二十一日 下立愛本報恩講
- 二十二日 下立愛本報恩講
- 二十三日 下立愛本報恩講
- 二十四日 下立愛本報恩講
- 二十五日 下立愛本報恩講
- 二十六日 下立愛本報恩講
- 二十七日 下立愛本報恩講
- 二十八日 下立愛本報恩講
- 二十九日 下立愛本報恩講
- 三十日 下立愛本報恩講
- 三十一日 下立愛本報恩講

# 報 恩 講

十月十九日午後一時 遠夜  
午後七時半 初夜  
二十日午前七時 晨朝  
午前十時 日中  
午後一時 満座  
布教 発願寺若院 川崎順正師

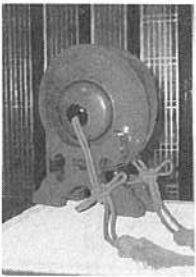
「ほんこさま」は私達の親鸞聖人のご法事、浄土真宗の門徒にとって重要なご法要です。十月十九・二十日の「善巧寺ほんこさん」どうぞ、おさそいあわせ、おまいりください。

# 空 華 忌

十一月四日午後七時半 初夜  
五日午前七時 晨朝  
午前十時 日中  
午後一時 満座  
講 行信教校長 利井明弘師

善巧寺第十一代住職明教院僧 銘さまのご法事です。「くろべの川の水清く月訪う里の……」釋隆弘の兄、利井明弘先生の心あたたまる法話に耳を傾けましょう。

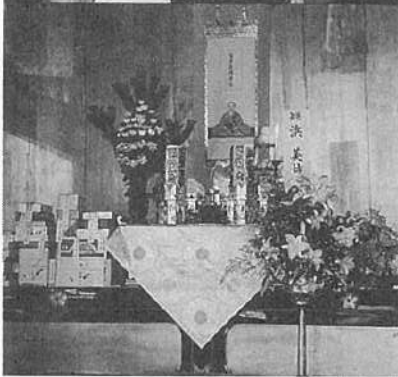
# ご 寄 進



鏡鉞 植木宏さん(生地)  
報恩講や祠堂会で使われる鳴り物の一つ、によはち(ドンジャラのジャラの方)にひびわれができて使用不能になりました。折良く祠堂が上りましましたので早速購入させていただきました。

# 夏用打敷

これまで善巧寺には夏用の打敷どころか、平常のものですらすっかり古くなって、門徒法事



# ほんこさん廻り

今年ももうほんこさんのシーズンになりました。赤いろうそく・聖典・念珠・お香・御文章・お花のご用意を。お仏壇のおそうじもお忘れなくご家族そろってお念仏いたしましょう。

# 今年の寺費は九千円

これはお寺の運営費です。皆様がお寺を守って下さるのです。

# 蓮如上人ご遠忌への寄附

今年こそ集めさせていただきま。一戸あたり二万円となっていますが、半分でも結構です。よろしくお願いいたします。

のために新調したのを使つて何とかしのいでいるという有様でした。この度四人の方の懇志によつて全てが涼しげな夏ものに新調されました。

# 国民文化祭とやま'96 国際こども演劇祭

日本代表の一つとして雪ん子劇団が出演します。オムニバスミュージカル「みんなおんなじ」をテーマに二つのミュージカルを上演します。ご期待下さい。

十月五日午前十時

宇奈月国際会館セレネ

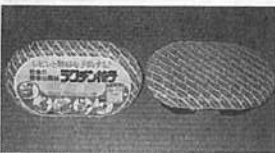
「うちのとうちゃん (雪ん子ジュニア) えらいんだ」

「桃次郎の昌隆」(雪ん子ジュニア)



# らくちん椅子

森岡昭二さん夫妻(石田) 年と共にだんだん正座がつかなくなってきました。そんな方に少しでも楽にお参りしてもらいたいと24個の座椅子をいただきました。



# 合 掌

暑い暑い、悲喜こもごもの夏でした。八十五才のごえはんはこの夏はきつすぎたようで、ついに力つきました。

思えば五十年近く、細い体で住職をつとめさせてもらいました。三十二才で善巧寺の住職に就任した時はどんなに心細い思いもしたことでしょう。文学者から僧侶へ、京都から浦山へ。ようやく次期後継者を迎えてほつとしたのもつかの間、八十才の時、若院に先立たれて苦悩の老後であつたろうと思われま。けれどもお念仏の声たからかに、最後までまわりの皆に「ありがとうお世話になります」と言いつづけたごえはんの帰り所はやはりお浄土でした。また一つ安心が深まったことです。

釋隆弘七回忌には遠く広島、奈良、大阪、東京などから隆弘を偲んでかけつけて下さいました。ご法話も、夜のコンサートも切なくうれしい法縁でした。

